

〔大上膳御名之事〕女房ことば  
一ひやしる。つめたおしる。

〔三中口傳五成海汁有寒温

冷汁温汁ト可書也

〔酒食論〕飯室律師好飯申様

四季おりふしの生珍はく、だち、たかむな、みやうがの子、松茸、平たけ、なめす、き、あつしる、こしる、ひやしつゆ。

〔厨事類記〕温汁

鮑汁、鳥臍、鯛汁等也、汁實ベチノサラニモリテ、追物ニ居クハヘテ供之云々、

寒汁實

興利實トテ、カサ子皮ノウヘノスキタルミヲ、カマボコノミノゴトクヲロシテカサ子、カハヲウスク切カサ子テ、三枚バカリニソノミヲ中ニ入テ、一ヲバ左ニ、一ハ右ニ、中フトニヨリテ、サラニ青カヒジキシキテ、二ヲナラベテモルベシ、ソノソバニタチバナノ葉、ワサビ、イタメジホ、トロ、ナドモリグシテマイラス、アヘラル、事ハ御前ノ儀也、或說云、寒汁ニ鯉味曾ヲ供ス、コヒノミヲヲロシテ、サラニモリテマイラス、ダシ汁或說ワタイリニテアルベシ、ニテアフベシ、イタメジホ、ワサビ、山ノイモヲロシテモルベシ、タチバナノ葉イルベシト云々、或說云、梨子ヲロシテグスベシ、アブルトキヲロシタルナシノツユヲトリテ、カキアフベシト云々、

〔庖丁聞書〕一鳥とろ、といふ事、冷汁也、鳥をあぶり細末して、たれみそをかへし、鳥を入出す也、一鯛とろ、といふも、鯛の肉を焙、鳥とろ、のごとく調也、是も冷汁也、

〔料理物語〕冷汁 いづれもにぬきにて仕立候、もづこあまのりのろふじにても入よし、くり